

# 日本銅学会誌「銅と銅合金」論文投稿要領

## ＜研究論文用＞

日本銅学会 編集委員会

2016年12月13日改訂

### 1. 投稿論文の資格

- 投稿論文は銅及び銅合金の製造、加工技術の向上およびその応用に寄与するもので、日本銅学会講演大会にて発表された論文とする。
- 但し、他学会講演会や論文誌に掲載・発表した経緯のあるものは、内容の修正、追記等の変更点を加えたものであること、及びそれを明記した資料を添付する。

### 2. 投稿内容の区分及び分類

- 論文分類を論文分類表より選択し原稿表紙の所定欄に番号で記入する。

### 3. 著作権

- 会誌に掲載された個々の論文の**著作権は、日本銅学会に帰属する**。ただし、著者自身の利用は妨げない。
- また、著作者は当該論文の複写の行使に関わる権利を当学会に委託する。

### 4. 原稿の執筆

- **原稿は、論文執筆要領に従って作成**する。又、原則として和文とし、Microsoft Wordにより作成する。
- 図・写真・表を含めた全体の枚数は、会誌（25文字、53行、2段組相当）5頁以内を原則とする。この限度を越えたものは特別な理由がある場合を除き、書き直しを求めることがある。

### 5. 原稿の校閲

- 会誌の編集は、**編集委員会の責任**において行うが、原稿内容の**最終責任は著者自身**が負う。
- 編集委員会が投稿原稿毎に最も適当と思われる校閲者を選定する。
- 校閲者は送付された原稿を指定日以内に内容を校閲し、指摘事項や訂正箇所を明確にし事務局に返送する。
- 校閲済みの原稿は、校閲者の意見に基づき編集委員会で内容を確認し、処置を決定して著者に送付する。
- 著者は校閲で指摘された事項を修正又は適切な処置をし、事務局へ指定期日までに返送する。
- 最終的な原稿の採否は、編集委員会で決定し著者に連絡する。
- 校閲者名は、いかなる理由があっても著者本人及び一般にも公表しないものとする。

注：当学会誌は現状年一回の発行で、原稿を講演大会後受付し短期集中的に審査を行うので、各ステップでの**指定期日を厳守**する。

## 6. 提出原稿について

項目	指定内容
刷り上がり頁数	原則5頁以内
①本文	2部
②和文概要（掲載しない）	英文概要相当の和文 2部
③英文概要（掲載する）	300～350語以内 2部
④図、表、写真	2部
⑤Caption一覧表	2部
⑥Keywords	2部
CD	1枚

- 出力した原稿一式(①～⑥)を2部提出する。

「原稿見本」と同じスタイルで①及び③～⑥を組込んで原稿を作成してもよい。  
原稿を組込んで作成する際には②和文概要は掲載しないので入れない。和文概要のみ別紙に作成する。

- この内、図・表・写真は、**1部を原紙(鮮明なもの)**、1部をコピーで送付する。
- カラー原稿は、原則として受付ない。（日本銅学会誌はモノクロ（白黒）印刷であり、カラー原稿を用いると、例えばFig中のグラフの線等が判り難く印刷されるため。）
- 投稿にあたっては、必ず必要事項を記入した本学会指定の表紙をつける。
- 校閲審査終了後、最終原稿をCDに記録して提出する。**  
また、執筆に使用したソフト（Microsoft Word等）を媒体（CD）に明記すること。

## 7. 原稿の保管

- 投稿者は投稿原稿全ての控えを保管する。
- 原稿は原則として返却しないので、著者による審査結果の検討修正及び校正の際に控えの原稿が必要となるため、控えの保管を必要とする。

## 8. 原稿の提出期限

- 当該講演大会の**翌年2月末**とする。又は特別に指定した月日を原則とする。
- 発行予定は講演大会**翌年の8月初**とする。

## 9. 論文賞

- 掲載された論文は、**日本銅学会論文賞の対象**とする。ただし、単なる製品紹介や解説的なものは、編集委員会の判断で、論文賞の選考対象外とすることがある。
- 論文賞受賞人数（論文投稿連名者人数）の制約はしないが、論文賞表彰状、記念品の授与は1論文に対し最大5名（著者も含め5名）までとする。（論文賞選考内規第6条の2.）

## 10. その他

- 掲載料は無料とする。

以上